

富三博士が
長崎の原爆跡に
立った時――



お預かりの
この命

他人様のために
役立てるとい
うことでありま
した



富三博士は
与えられた
運命を避ける
ことはしません
でした



与えられた
その場所が
最善の場として
受け入れ
ただ懸命に
働いたのです



それが結果的に
成功したのであって

世に認められ
名を上げたいとか
そういう気持ちは
ありませんでした
正に無欲の勝利です



後にそういう
生き方を

流れる
生き方と
表現して
います

